

# 修養会を覚えての全校礼拝①

(高校二年生による礼拝)

聖書箇所:ペトロの手紙一3:10-12

「命を愛し、幸せな日々を過ごしたい人は、舌を制して、悪を言わず、唇を閉じて、偽りを語らず、悪から遠ざかり、善を行い、平和を願って、これを追い求めよ。主の目は正しい者に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。主の顔は悪事を働く者に対して向けられる。」

みなさんには「自分はこんな人でありたい」という目標はありますか？私は具体的に憧れる人はいないのですが、小さい頃から“いい人になる”ということをお大切にしてきました。

“良い”というのは漠然としていますし、人によって基準が違うため判断も難しいです。例えば、あいさつなどの行動に品がある人、ゴミ拾いや募金活動をしている人。内面でいうと、優しい人や気遣いができる人。他の人の行動や言葉で自分が「かっこいい」、「すごいな」、「してもらえてうれしかった」という事を”良い事”として、自分でもそれを実行してみることにしています。

私は体操競技部に所属しています。中1のときに入部してから多くの事を学び、経験してきた、今の私があるのは部活のおかげだとも言える場所です。

私は体操部が大好きです。それは今までいてくれた先輩方の影響が大きいと思います。先輩方は体操を上手くなるために練習では自分にも私たちにも厳しかったけれど、沢山のアドバイスをくれたり優しく励ましてくれたりもしてくれる、かっこいい人たちでした。そんな先輩方の背中を見て、私も「いい先輩」と呼ばれる人になろうと決めていました。

部活の空気を作るのは先輩の役目です。先輩にしてもらった事をなぞりながら、怖い先輩にならないように、“優しく声をかけやすい先輩”を目標にして、初めての後輩ができたときはすごく頑張って話しかけていたのを覚えています。

ですが、私は今「優しい」を目標にしたことを少し後悔しています。高校生になり、部長となったときに私は「断る」ということができなくなっていました。“いい先輩”になるためには他の人には負担をかけない

ように、嫌だと思われないうにしなければと考えていました。休みがちな部員にもなかなか本音がいえず、「いいよ、いいよ」とその場の空気が良くなるだけの言葉ばかりかけてしまい、あとから後悔をしたり、本来分け合う仕事を1人で背負ってしまい辛い思いをしたり。「注意したら悲しむかも」「頼ったら相手の負担になるかも」と考えてしまい、全部を受け止めきれるのが“良い人”なのだと思っていました。

“いい人”というのは、考え方や行動によっては“都合のいい人”にもなってしまいます。

私の場合、辛いと思った時に1人で抱え込み、独りよがりな考えを持ってしまったからこのようなことが起こってしまいました。

この経験から、色々な人に相談をしたり先輩や先生から話を聞いたりして、「私はどうあるべきか」、「いい先輩とは」と考え直しています。

聖書を読んでいると多くのところで“いい人”について書かれています。例えば、善きサマリア人のたとえや「隣人を自分のように愛しなさい」という教え、そして今日読んだ聖書箇所です。

ここから、聖書がいう“いい人”とは誰かの隣人になろうと行動する人のことだと私は考えます。

不満や悪口が全くない人や完璧な人は私も含め一人もいません。常にいい人でありたいと思っても実現することは難しく、それ故に誰に対しても100点のいい人であることはできません。

ですが、誰かの隣人になろうと行動することはできます。たとえそれが上手くいかなかったとしても、その行動は意味のあるものだったと言えます。

今日の聖書箇所には「舌を制して悪を言わず、くちびるを閉じて偽りを語らず、悪から遠ざかり善を行い、平和を願ってこれを追い求めよ。」とあります。

これはまさに、“良い人”を表していると思います。悪口や不満を思ったとしても、口には出さず、愛をもった行動をする。人として1番大事なことだと思っています。

この御言葉を軸として、自分の中の“良い人”をこれからも磨いていきたいです。